

編集後記

戦前まではわが国の医師の社会的地位は高く、経済的にも恵まれていたが、近年は下落の一途をたどっている。その実例や数字は茲に挙げるまでもない。医師になるためには他の業種よりも多年の修業を必要とし、仕事の内容も重大なものであるのにこのしまつである。健保制度によつて医療費は低くおさえられ、勤務医の俸給も一般俸給者と異ならぬ。これでは医者を目指する意欲が起ころぬのも無理はない。一点単価を一割程上げるのに大騒動である。その間に鉄道や郵便の料金は簡単に上がり、労組はストを行つてベースアップやボーナスが跳ねあがる。或方面の勢力は医療費の値上げには反対するが、上記の諸料金の値上げには沈黙している。医療は国民が当然受けるべきものであるからこれを値上げしてはならぬとか、支払う側の意見を尊重せよとか、挙げるならば国が負担せよとか云う。然し鉄道も郵便も国民生活に欠くべからざるものであるのにこれは簡単に上がる。支払う側は国民であるが、その意見を問う事もなく、国が負担する事もない。土地代、家賃、食品代等も簡単にあがる。医者だけがサービスを強制させられている状態である。

大学病院の施設の改善、定員の増加、職員の待遇改善等は甚だ望みが少い。国公立の病院なども少い定員で大量の仕事を低い俸給でやりくりしているのである。そんな事では十分な医療は行い得ないし、将来は益々悲観的である。他方世の中を見ると、娯楽や享楽の機関は目をみはるばかりに豪勢になり、東海道線の汽車を見ても別世界のようなデラックス振りであるし、軍備もどしどし拡張されている。総理大臣は米国で歓待を受けて日本は大国であると御喜びであるが、風水害のひどさや大学病院の無残さ等をどう考えているのか。公立病院の医師や看護婦の定員は少いが、その少い定員さえも満たしている病院は殆どないであろう。政治家も国民も世の中で何が本当に大切であるかを認識し、特に医界の上層にある人達は自己の安泰に押れずに、現在及び将来の日本の医療のために真剣に考慮する責任がある(昭和36年7月)。



岐阜大学泌尿器科近藤教授が長崎大学へ転任せられた後任として京大泌尿器科助教授後藤薫氏が決定せられた。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)する。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、著、臨床報告、その他、寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名・誌名・巻数・頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1 110、昭30。Lazarus J. A. : J. Urol, 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁600円、それ以上の頁、アト頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院京都大学病院泌尿器科紀要編集部。